

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式	
M212Q306		慢性期看護方法論 (Chronic Nursing Practice)					成人看護学			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態
必修	1	3	医学部看護学科	前期	月3	日本語				複数(共同)
担当教員	氏名 脇 幸子・大野夏稀・佐藤昂太郎 E-mail syamasit@oita-u.ac.jp 内線 5052									
授業の概要	慢性期看護方法論 と同事例を用いてさらに深化させ、“慢性の経過をたどる人への看護”として、慢性疾患を持ちながら地域で暮らす人が保健対策や外来通院や入院退院を繰り返しながら、セルフケア能力を駆使して病氣と向き合い、治療や健康障害に伴い生活を調整あるいは再構築することを支えるといった、QOLの向上・充実を目指すためのセルフケア支援について演習する。また、在宅療養に向けた退院支援では、地域包括ケアシステムの中で継続的な支援と社会資源の活用など長期に療養生活を送る対象や家族への看護について学ぶ。									
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		
目標1	病みの軌跡やセルフケアなど理論を活用して、慢性疾患をもってセルフケア行動形成しながら生きる対象について説明できる。							1	2	3
目標2	慢性疾患をもつ人のセルフケア行動の段階に応じたセルフケア支援の方法論を活用して、援助的コミュニケーションを実施する。							4	5	6
目標3	慢性的なゆらぎの再調整が必要な人への、セルフケアを促し慢性疾患との共存を支える看護援助を実施する。							7	8	9
目標4	慢性疾患を持つ人に必要な社会資源を活用し、在宅療養に向けた退院支援を実施する。							10	11	12
目標5								13	14	15
目標6								16	17	18
目標7								19	20	21
目標8								22	23	24
目標9								25	26	27
目標10								28	29	30
各DPへの関連度(計10)								1	4	4
授業の内容										
1	オリエンテーション・成人教育・セルフケア支援のアプローチ方法									
2	成人教育・セルフケア支援のアプローチ方法・グループワーク(演習計画・準備)									
3	成人教育・セルフケア支援のアプローチの演習(セルフケア段階・意思決定支援) *全体ディスカッション 2型糖尿病をもつ就労者へのセルフケア支援									
4	成人教育・セルフケア支援のアプローチの演習(セルフケア段階・意思決定支援) *全体ディスカッション 肝がんのある就労者へのセルフケア支援									
5	成人教育・セルフケア支援のアプローチの演習(セルフケア段階・意思決定支援) *全体ディスカッション 労作性狭心症を持つ就労者へのセルフケア支援									
6	成人教育・セルフケア支援のアプローチの演習(セルフケア段階・意思決定支援) *全体ディスカッション 慢性腎不全のある人へのセルフケア支援									
7	グループワーク(演習計画・準備)									
8	在宅に向けての退院支援の演習 *全体ディスカッション ALS or クロウン病をもつ人への看護 在宅医療処置:人工呼吸器・吸引or経管栄養									
9	在宅に向けての退院支援の演習 *全体ディスカッション 慢性呼吸不全 or 慢性心不全のある人への看護 在宅医療処置:在宅酸素療法									
10	在宅に向けての退院支援の演習 *全体ディスカッション SLE or 血液がんをもつ人への看護 外来通院:薬物療法									
11	脳血管障害のある人への看護事例:医療、福祉の連携、社会資源の活用、入院から在宅への連携・継続看護									
12										
13										
14										
15										
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	A:授業評価シート 課題レポート					工 夫 の 他 の	*慢性看護方法論 と同事例を用いて、看護計画を立案した中から実施をする。 *社会資源や医療器具の実物使用し、シミュレーションやロールプレイを実施する。 *Moodle活用:撮影動画活用	
	B:意見の表現・交換	○	B: 発問・グループワーク・ディスカッション							
	C:応用志向	○	C:グループワーク・事例検討・患者体験・ロールプレイ・シミュレーション							
	D:知識の活用・創造									
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	演習および課題レポートに向けての準備・作成(15h)								
	事後学修	演習での学びの振り返り(2h)								
	想定時間合計	17								
教科書	慢性期看護方法論 と同様(任和子他 病期・発達の視点でみる疾患別看護過程 照林社 2020 ISBN-10: 479652522 X)									
参考書	必要時に提示する									

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	演習：自己評価・グループ評価・教員評価		35%		○	○	○						
	課題レポート		65%	○	○	○	○						
注意事項	履修条件：慢性期看護方法論 の単位を取得していること												
備考	授業評価シートの提出をもって出席状況を確認する												
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	脇 幸子（看護師，大分県糖尿病療養指導士）・大野夏稀（看護師，保健師，がん看護専門看護師）、佐藤昂太郎（看護師・保健師）												
実務経験を いかした教育内容	演習や講義を通して、生活習慣病、がん、難病、感染症などの慢性疾患を持つ対象の理解と入退院を繰り返しながら長期に療養生活を送る対象や家族への看護につ いての知識・技術・態度を支援する。												